

[H28年度期初訓示]

H28-4-1

矢野弘典

力合わせて一歩前進

平成28年度の初めにあたり、ご挨拶を申し上げます。

ふじのくにづくり支援センターが法人化し、満1年が経ちました。今日からは2年目のスタートとなります。誕生日から数えればまだ間がありませんが、レールを敷いて走り出したところです。力を合わせて、一歩一歩前進したいと考えておりますので、皆さまのご尽力をお願いいたします。幸いにして昨年度は、皆さまのお力によりセンターとしての受注を実現することができました。公社独自の事業分野におきましても、市町への受注活動が本格化し、手応えが始めました。今年は、それらの足場を一層固めて、センターの存在と公社の新しい役割を県内のご関係者に広く知って貰い、具体的な事業の拡大に取り組む時であります。

さて、このような時にあたり、執行体制を刷新するため、本日付でセンターと公社は大きな人事異動を行いました。常勤役員が三人とも異動したのは、かつてないことです。次のとおりです。

小川さん	センター専務理事兼事務局長 土地公社専務理事、三公社総務部長
野知さん	センター常務理事、道路公社常務理事
若梅さん	センター常務理事、住宅公社常務理事

お三方には、風通しのよい職場を作りつつ、これまで培った見識を生かして、存分にリーダーシップを発揮し、新風を吹き込んでください。また、関連する一連の人事異動も行いました。このような新体制の元で、ここにお集まりの幹部を始め職員の皆さまには是非力を合わせて、日々の仕事に取り組んで頂きますようお願いいたします。

組織体制についても本日付で、現場で仕事がしやすいようにするという観点から、いくつかの変更を行いました。組織の形は、現場の必要性から生まれるものです。今後とも、常に臨機応変に弾力的でなければならぬと思います。

私は、年に三回、幹部の皆さまに直接お話をする機会を頂いております。上期と下期の期初、それに年賀の時です。そしてご承知のとおり、基本的にはいつも同じことを繰り返し申し上げてきました。目新しいことは、その時々々のトピックスだけです。組織を経営する原則は、常に変わらないからです。その都度原則に立ち返り、心を新たにして、これから迎える半年なり一年という半ば未知の世界に挑戦することが大切だと思います。皆さまに語りながら、私自身も新しい気持ちで原則に立ち返ろうとしているのです。

原則とは次の三点で、お互いに深く関係し合っています。

- 1, 「お客様とともに歩む」経営理念を徹底する。
- 2, 既存事業の質を高め、新規事業に挑戦する。
- 3, 予算を達成し、健全経営を実現する。

内容については、皆さまは重々ご承知のことですので、敢えて詳しく解説はしませんが、よくよく肝に銘じて頂きたいと思います。「お客様とともに歩む」姿勢を、一人ひとりが堅持して心の通った仕事をする。そうすれば自ずからセンターと公社の事業が活発化し、結果として、決算の健全性・資産の健全性・信用の健全性が生まれるのです。企業や団体が長く存続するかどうかの鍵はそこにあります。仕事が増えれば、人も自然に増えるという好ましい循環が生れます。世の中に役に立つ良い仕事をすれば、世の中はそれに応えてくれる。利益を英語でリターンというのですが、良いサービスに対する「お返し」という意味ですから、なかなか真理をうがった言葉です。日本が世界に誇る「おもてなしの心」も、優れたサービスの代表と言えるでしょう。

仕事に臨む原則は以上のとおりですが、これらに共通する行動課題

として、「現場主義」の重要性を改めて強調したいと思います。

現場主義とは、「現場に立って考え行動する」ということです。問題が発生したら、現場に出かけて解決策を探そう。現場はアイデアとインスピレーションの宝庫です。問題がなくても現場を定期的に回って、その変化を観て、現物に触れ、人の話を聞いて、実態とその変化を体得しよう。急ぐ問題と時間をかけても良い問題、言いかえれば事柄の優先順位が分かるようになります。将来への新しいアイデアも、現場がヒントとなって生まれてきます。自分が現場に出かけなければいけません。現場の人を事務所に呼んで話を聞くのはムダではありませんが、それだけでは本当の現場主義とは言えないのです。それは間接的な現場主義であって、これで良しとする風潮が蔓延ったら、組織活動は低迷し勢いを失いダメになっていきます。お客様との折衝や交渉に始まり、現場で発生したクレームへの対応、事故や災害の解決、地域社会との接触など、私たちが持つ現場の範囲は限りなく広いのです。もちろん現場は、道路や住宅や土地という外勤の現場だけではなく、内勤の事務処理も現場です。

現場で問題解決をする能力を「現場力」と申しますが、これは、

《使命感 + チームワーク + 技術力 + 経験》

の総和です。「お客様とともに歩む」という使命感を一人ひとりが持って、上下左右あるいは組織を超えた協力関係を高め、各々の専門知識を深め、経験を積んで行くことが何よりも大切です。大きな目標も足元の一步からという気持ちでやって参りましょう。教育の場は今後とも設けますので、皆さまも積極的に参加して下さい。

終わりにあたり一言申し上げます。ご家族ともども、身心の健康に留意して下さい。そして、悔いのない一年といたしましょう。

明るく、元気で、仲よく、厳しく！

以上